

天井面

30mm以上

435mm

天井まで320mm以上はなすこと

浴室コーナーまたはユニットバスジョイント部
630mm

φ40

台座

浴室コーナーまたはユニットバスジョイント部

120mm以上
はなすこと

120mm以上
はなすこと

φ40

台座

- 在来浴室の場合
木下地:φ6×4~8ヶ
コンクリート下地:φ6×4ヶ
- ユニットバス・システムバスの場合
φ3.5×8ヶ

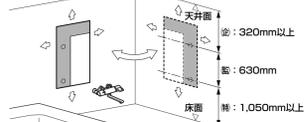
- 在来浴室の場合
木下地:φ6×4~8ヶ
コンクリート下地:φ6×4ヶ
- ユニットバス・システムバスの場合
φ3.5×8ヶ

位置決めシート

同梱の「施工説明書」とあわせてご利用いただき、お客様のお好みに位置にシャワーバーを取り付けてください。

4.1 シャワーバーの位置決め

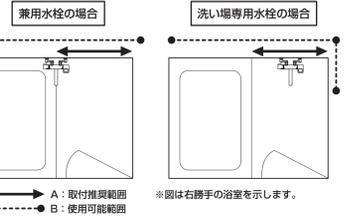
お客様とご相談のうえ、取付位置を決めてください。取付位置の確認、および周囲の器具(鏡や照明など)との取り合いと使い勝手確認のため、「位置決めシート」も同梱しております。本説明書とあわせてご確認ください。位置決め・取付作業にお役立てください。
(位置決めシートのおすすめ使用方法)



- 浴室内の壁に位置決めシートをあて、シャワーバーの寸法を確認しながら、取り付ける壁を決める。(位置決めシート)のグレーの範囲には、壁パネルのジョイント部¹がつかないようにする。また、周囲の器具(鏡・照明など)にかからないよう位置を決める。[*1: ユニットバス・システムバスの場合]
- 取り付ける位置が決まったら、上記のように、壁:床から1,050mm以上²壁:床から630mmの位置をかく(ただし壁:320mm以上確保すること)(*2: 天井高さに余裕があれば、壁:320mm以上となるよう、お客様のお好みで高さ上げてもらい)
- シャワーバー(切替本体・スライドバー・オーバーヘッドシャワー部)を仮組みし(本説明書 ②-③参照)、上記で決めた位置に台座をあわせ、オーバーヘッドシャワーの可動範囲と使い勝手を確認する。

●以上の作業で取付位置が決まったら、本説明書 ②-⑤に従い、下穴をあける。

図下図AまたはBの範囲でシャワーバーの取付位置を決める。



- シャワーバーは、水栓本体近くに取り付けてください。水栓本体から離れすぎると、使い勝手が悪くなったり、ホースにつまみやすくなるおそれがありますので、事前にご確認ください。
- オーバーヘッドシャワーは左右に回して(首振り)お好みの位置でお使いいただけますが、周囲の照明や壁などにぶつからないようご注意ください。

用(注意)下記のスペースを確保してください。
●天井面から30mm以上確保してください。天井面との間で指を挟むおそれがあります。



4.2 シャワーバーの位置決め(つづき)

- 取付芯の位置は浴室コーナーから120mm以上離してください。切替ハンドルやハンドシャワーの使い勝手が悪くなることがあります。



ユニットバス・システムバスの場合、壁パネルのつなぎ目からも120mm以上離してください。

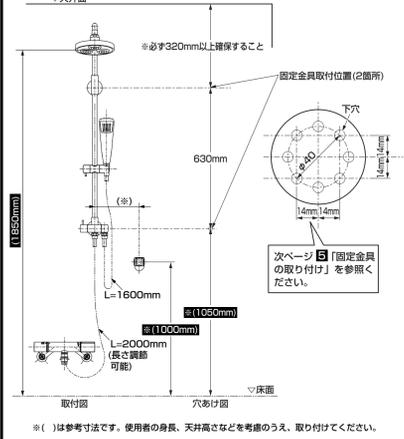
【浴室用衣類乾燥機をご使用の場合】

- シャワーバーは衣類乾燥機の温風吹出口および空気吸込口から100mm以上離して取り付けてください。
-詳しくは、「安全上の注意」を参照してください。



穴取付位置を決め、穴あけ位置を決める。

下図の範囲でお好みの高さで設定してください。



※()は参考寸法です。使用者の身長、天井高さなどを考慮のうえ、取り付けてください。

5.1 固定金具の取り付け

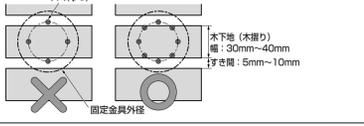
固定金具の取付方法は取り付ける壁によって異なります。下記に従って取り付けてください。

- 正しいサイズのドリルをお使いください。下穴径が大きすぎると、芯振れを起こして正しい固定ができないことがあります。また下穴径が小さすぎると、タイル割れをおこすおそれがあります。
- 自壁材に応じて、適切な材質のドリルを使用してください。
- 穴あけ後は、下穴にシール剤を必ず充填してください。
- 下表に従い、壁材に応じた正しい長さのねじを同梱部品よりお選びください。

<浴室壁材ごとの下穴径と必要数>

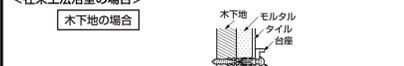
浴室壁材	下穴径 (mm)	深さ (mm)	穴数	使用ねじ他(同梱)	使用ねじ
在来工法浴室	φ6	20 (タイル・モルタルのみ)	4~8	要	固定金具φ4.5×45 (長)
ユニットバス	φ3.5	50 (貫通穴)	8	不要	固定金具φ4.5×20 (短)

- ※1: 固定金具1個あたり
- ※2: 1カ所あたり下穴数(木下地の場合)
- ※3: 木下地に4本以上ねじがかかるよう、現場にて調整ください。(下記)木下地の場合は、下地に固定金具を4本以上かかると、ねじ本数を調整してください。

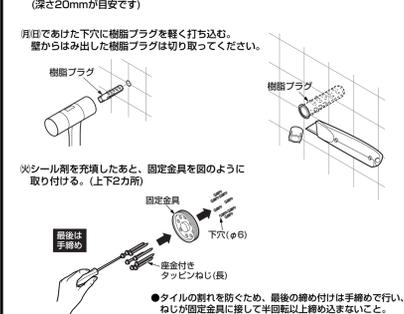


※銅板壁以外のユニットバス・システムバス(タイル・プラスチック・大理石など)には取り付けできません。

<在来工法浴室の場合>



目印をあけた下穴に樹脂プラグを軽く打ち込む。壁からほみ出した樹脂プラグは切り取ってください。

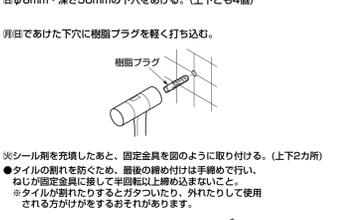


●タイルの割れを防ぐため、最後の締め付けは手締めで行い、ねじが固定金具に挿して半回転以上締め込まないこと。●ねじを空転させるとタイルが割れたり、外れたりして使用される方がおそれがあります。

5.2 固定金具の取り付け(つづき)



目印をあけた下穴に樹脂プラグを軽く打ち込む。

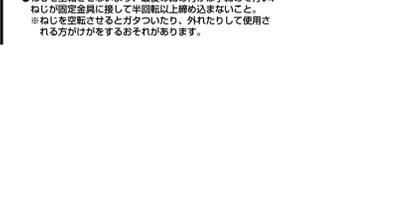


●タイルの割れを防ぐため、最後の締め付けは手締めで行い、ねじが固定金具に挿して半回転以上締め込まないこと。●ねじを空転させるとタイルが割れたり、外れたりして使用される方がおそれがあります。

<ユニットバス・システムバス(銅板壁)の場合>



目印をあけた下穴に樹脂プラグを軽く打ち込む。



●ねじを空転させないよう、最後の締め付けは手締めで行い、ねじが固定金具に挿して半回転以上締め込まないこと。●ねじを空転させるとタイルが割れたり、外れたりして使用される方がおそれがあります。

30mm以上 △天井面

435mm

天井まで320mm以上はなすこと

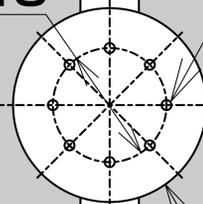
630mm

浴室コーナーまたはユニットバス

浴室コーナーまたはユニットバス

- 在来浴室の場合
木下地:φ6×4~8ヶ
コンクリート下地:φ6×4ヶ
- ユニットバス・システムバスの場合
φ3.5×8ヶ

台座



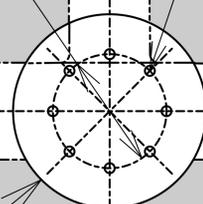
φ40

- 在来浴室の場合
木下地:φ6×4~8ヶ
コンクリート下地:φ6×4ヶ
- ユニットバス・システムバスの場合
φ3.5×8ヶ

- 在来浴室の場合
木下地:φ6×4~8ヶ
コンクリート下地:φ6×4ヶ
- ユニットバス・システムバスの場合
φ3.5×8ヶ

φ40

台座



位置決めシート

同梱の「施工説明書」とあわせてご利用いただき、お客様のお好みの位置にシャワーを取り付けてください。

4.1 シャワーの位置決め

お客様とご相談のうえ、取付位置を決めてください。取付位置の確認、および周囲の器具(鏡や照明など)との取合いと使い勝手確認のため、「位置決めシート」も同梱しております。本説明書とあわせてご確認ください。位置決め、取付作業にお役立てください。
(位置決めシートのおすすり使用方法)

天井面 高さ: 320mm以上
天井面 高さ: 630mm
床面 高さ: 1,050mm以上

- 浴室内の壁に位置決めシートをあて、シャワーの寸法を確認しながら、取り付ける位置を決める。(位置決めシート)のグレーの範囲には、壁パネルのジョイント部「1」がつかないように注意してください。また、周囲の器具(鏡など)にかからないよう位置を決める。「1」: ユニットバス・システムバスの場合)
- 取り付ける位置が決まったら、上図のように、壁: 床から1,050mm以上+2
窓: 床から 630mmの位置をけく(ただし窓: 320mm以上確保すること)
(※: 天井高さに余裕があれば、窓: 320mm以上となるよう、お客様のお好みで高さを上げて下さい)
- シャワー(切替本体・スライドバー・オーバーヘッドシャワー部)を仮組みし(本説明書 ③-⑤ 参照)、上記でけいた位置に台座をあわせ、オーバーヘッドシャワーの可動範囲と使い勝手を確認する。

●以上の作業で取付位置が決まったら、本説明書 ③-⑤ に従い、下穴をあける。

4.2 シャワーの位置決め(つづき)

●取付位置は浴室コーナーから120mm以上離してください。切替ハンドルやハンドシャワーの使い勝手が悪くなる場合があります。

ユニットバス・システムバスの場合、壁パネルのつなぎ目から120mm以上離してください。

【浴室用衣類乾燥機をご使用の場合】

- シャワーは衣類乾燥機の温風出口および空気吸込口から100mm以上離して取り付けてください。
- 詳しくは、「安全上の注意」を参照してください。

100mm以上

5.1 固定金具の取り付け

固定金具の取付方法は取り付けの壁によって異なります。下記に従って取り付けください。

【注意】

- 正しいサイズのドリルをお使いください。下穴径が大きすぎると、芯ズレを起こして正しい固定ができないことがあります。また下穴径が小さすぎると、タイル割れをおこすおそれがあります。
- 自衛材に応じて、適切な材質のドリルを使用してください。
- 穴あけ後は、下穴にシール剤を必ず充填してください。
- 下表に従い、壁材に応じた正しい長さのねじを両側部品よりお選びください。

<浴室壁材ごとの下穴径と必要数>

浴室壁材	下穴径 (mm)	深さ (mm)	穴数	※1	使用ねじ(両側)	使用ねじ
在来工法浴室	φ6	20 (タイル・モルタル)	4~8	※2	要	固定金具タッピンねじ φ4.5×45 (長)
コンクリート下地	φ6	50	4		要	固定金具タッピンねじ φ4.5×20 (短)
ユニットバス	φ3.5	50 (貫通穴)	8		不要	固定金具タッピンねじ φ4.5×20 (短)

※1: 固定金具1個あたり
※2: 1カ所あたり下穴数(木下地の場合)
※3: 木下地に4本以上ねじがつかれるよう、現場にて調整ください。(下記)木下地の場合は、下穴に固定金具タッピンねじが4本以上つかれるようねじ本数を調整してください。

5.2 固定金具の取り付け(つづき)

コンクリート下地の場合

下穴φ6 深さ: 50mm
目φ6mm・深さ50mmの下穴をあける。(上下とも4個)
目径であけた下穴に樹脂プラグを軽く打ち込む。

樹脂プラグ

シール剤を充填したあと、固定金具を壁に取り付ける。(上下2カ所)

- タイルの割れを防ぐため、最後の締め付けは手締めで行い、ねじが固定金具に接して半回転以上締め込まないこと。
- ※タイルが割れたりするとガタついたり、外れたりして使用される方がおそれる場合があります。

樹脂は手締め

固定金具

下穴(φ6)

<在来工法浴室の場合>

木下地の場合

下穴φ6 深さ: 20mm
目φ6mm・深さ20mmの下穴をあける。(上下とも4~8個) 前ページの表に従い、上下とも木下地にねじが4本以上つかれるよう、ねじ本数を調整してください。

目径であけた下穴に樹脂プラグを軽く打ち込む。壁からはみ出した樹脂プラグは切り取ってください。(深さ20mmが目安です)

樹脂プラグ

樹脂は手締め

固定金具

下穴(φ6)

●タイルの割れを防ぐため、最後の締め付けは手締めで行い、ねじが固定金具に接して半回転以上締め込まないこと。

※タイルが割れたりするとガタついたり、外れたりして使用される方がおそれる場合があります。

<ユニットバス・システムバス(鋼板壁)の場合>

目φ3.5mmの下穴をあける。(上下とも8個)

目径であけた下穴に樹脂プラグを軽く打ち込む。壁からはみ出した樹脂プラグは切り取ってください。

樹脂は手締め

固定金具

下穴(φ3.5)

●ねじを空転させないよう、最後の締め付けは手締めで行い、ねじが固定金具に接して半回転以上締め込まないこと。

※ねじを空転させるとガタついたり、外れたりして使用される方がおそれる場合があります。